

# 01 見通しをもった「所見」の作成するには？

	1学期	2学期	3学期
総合所見		必見	

**A** 子どもの成長を見逃さずに、記録する習慣をつけよう！

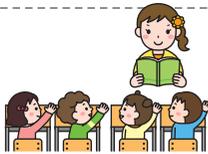
通知表の所見は、子どもの成長の様子と今後の期待感を家庭に伝える担任からのメッセージです。所見を読んだ保護者が、担任はわが子の成長ぶりをよく見取り、価値づけてくれていると思えるような文章を書きましょう。

## 担任の意識

子どもの成長ぶりを家庭と子ども自身に伝え、次の学期への意欲づけになるようにしよう。



視点をもって、日々の子どもの成長ぶりを具体的に把握する。



子どもの成長を促すために、子どもがもっているよさや可能性を見だし、評価・価値づける。



そのことを端的に分かりやすく家庭に伝えるために文章化する。



## 保護者の意識

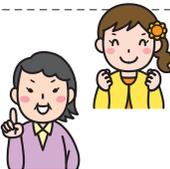
子どもの学校での様子を担任がどう評価・価値づけているかを知り、家庭としての役割を確認したい。



担任はわが子の成長ぶりをどうとらえ、さらに伸ばしてくれようとしているのかといったことに高い関心がある。



わが子のよさや可能性を引き出し、評価してくれることに感謝し、担任への信頼を高める。



次の学期も、子どものよさや可能性を適切に評価して指導してもらえると期待感が高まる。



保護者や子どもからの信頼を高め、「この通知表はずっと大事にしよう!」と思ってもらえる所見を作成する。

## 所見作成のポイント

**子どもの変容、成長を見逃さない視点!**

子ども一人ひとりの成長の様子や、もっている力を発揮した場面などを見逃さない力を身につけたい。そのためには、「子どもをよく見る」ことであり、「子どもの立場に立つ」ということである。

これは言葉で言うほど容易なことではない。しかし例えば、「苦手なことへの挑戦」という視点で子どもたちの様子を見ていれば、「苦手な計算練習に粘り強く取り組み、成果が出たときの笑顔が印象的でした。また、その姿を頼もしく思います。」といった所見が書ける。

**日々のメモの蓄積を!**

所見の管理職への提出日は決められている。そこから逆算し、いつごろから文章を書き始めたらいいか日程の見通しを立てる。その間に、成績処理や学期末事務等も重なることを見越して、所見の下書きスタート日を決めておく。いざ、書き始めたときに、手元にどれだけの材料が揃っているかで、質の高い所見を効率よく書けるかどうかが決まる。子どもが変容したとき、また、成長の兆しを見せたときに、そのエピソードを週案簿や記録専用ノート等に蓄積しておきたい。

### 子どもを見取る視点例

- 学習**
  - 苦手なことへの挑戦
  - 得意なことへの伸長
- 行事**
  - 自己目標の実現
  - 粘り強さ・活躍ぶり
- 友達関係**
  - 他者への優しさ・思いやり
  - 友好関係の広がり、深まり
- 集団への貢献**
  - 係や当番の仕事ぶり
  - 全体のためにという言動
- 運動**
  - 体力向上への意欲や取り組み
  - 保健・衛生への関心・実践



子どもの言動に高いアンテナを張り、見取った都度、書き留めておくのがポイントです!



4月6日～10日

名前	変容・エピソード
荒田	比例の学習場面で…
飯田	
上山	大縄跳びで声かけをして…
小川	委員会委員長として…
加賀	

4月13日～17日

名前	変容・エピソード
荒田	
飯田	友達に助言して…
上山	整列場面で…
小川	
加賀	外遊びの声かけを…

### これが所見文の作成手順だ!

所見の文字数が決まっていたら、上記の視点やその子どもの成長点から、最も書きたいものを3～4点に絞り、文字数配分を決める。

もっとも伝えたいことを最初に。次にそれとは異なる視点から頑張った事実を書き、最後に次の学期に結びつけやすい内容を書く。

1つの視点の文章は、「事実」⇒「それを担任はどう評価しているか」⇒「そのことにはどんな価値があるか」という文脈を意識して文章化する。

### 所見文例

「考えをたくさん発言する」という1学期の目標通り、失敗を恐れず挙手する姿がぐんと増えました。算数の問題の解き方を、図や式をうまく使って説明する姿を頼もしく思いました。誰に対しても公平で、やるべきことに責任をもって取り組む〇〇さんの行動は、学年全体のお手本となっています。リーダーとして力を発揮するよう応援しています。

### 【文字数160字の構成】

- ① 最も評価したい点の価値づけ
- ② 具体的なエピソード
- ③ 年間を通して価値づけたいこと
- ④ 今後の期待